

深谷 修代 (芝浦工業大学)

n-fukaya@shibaura-it.ac.jp

1. 序

本研究発表では、日本語の壁塗り構文で代表的な「塗る」を取り上げる。壁塗り構文とは、(1a, b)のような交替可能な構文をいう。(1a)では、場所の「壁」がニ格で現れているのに対して、(1b)ではヲ格で現れている。移動物については、(1a)では「ペンキを」というようにヲ格だが、(1b)ではデ格が用いられている。今回の分析では、壁塗り構文だけでなく、(2)のような構文も取り上げる。そして、辞典とデータに基づきながら、壁塗り構文「塗る」の特徴を探る。

- (1) a. 壁にペンキを塗る b. 壁をペンキで塗る
 ~(場所)に~(移動物)を ~ (場所)を~(移動物)で
- (2) a. 壁を塗る b. ペンキを塗る c. 壁に塗る d. ペンキで塗る

2. 壁塗り構文

2.1. 壁塗り構文の特徴

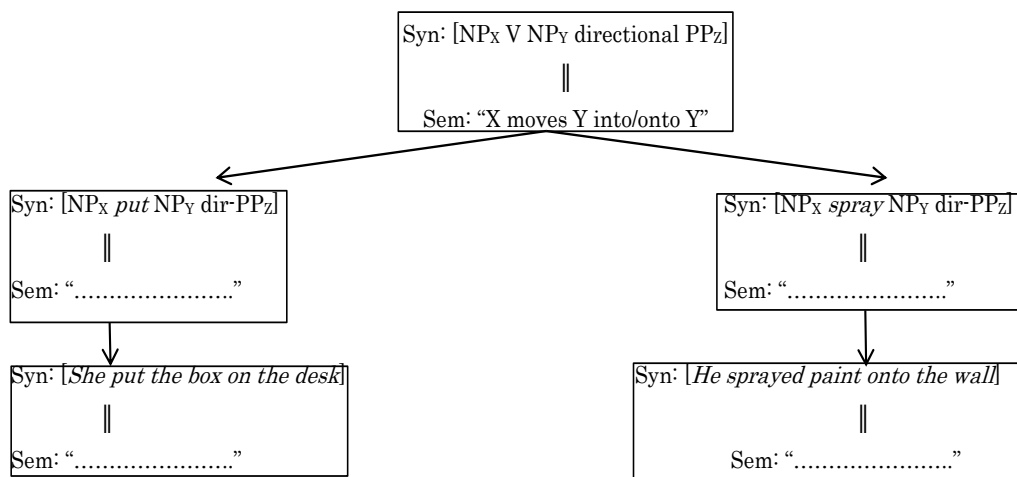
(1a)と(1b)は交替できるが、2つの構文には意味の違いがあることは知られている。

- (3) 場所目的語構文は、当該の行為の結果、その場所の色や形状(形や状態)が大きく変化する場合に適格となる。 (高見・久野 (2014:151))
- (4) a. (肩凝りがひどいので)肩に湿布薬を塗った。
 b. * (肩凝りがひどいので)湿布薬で肩を塗った。 (高見・久野 (2014:134))
- (5) 赤い口紅で唇を毒々しく塗る。 (高見・久野 (2014:134))

2.2. 先行研究

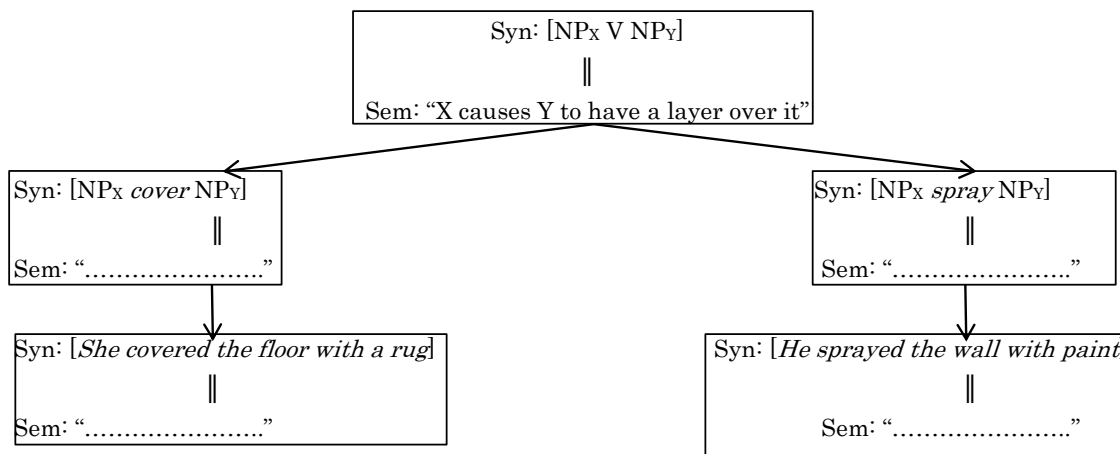
Iwata (2008)によると、壁塗り構文は、移動物目的語構文と場所目的語構文が別々の構文と意味を持つ。英語の移動物目的語構文では、*spray* は *put* と同じ統語構造と、YがZに移動するという意味を持つ(6)。場所目的語構文では、*cover* と同じ統語構造と意味を持つ(7)。日本語の壁塗り構文「塗る」は、(8)のように「付ける」、(9)のように「覆う」と同じように分析できる。高見・久野 (2014)においても、2つの壁塗り構文では意味が違う点、(10)のようにニ格やデ格を省略した構文が可能な点を踏まえて、それぞれ2つが基本形であると主張している。

(6)移動物目的語構文 (英語)



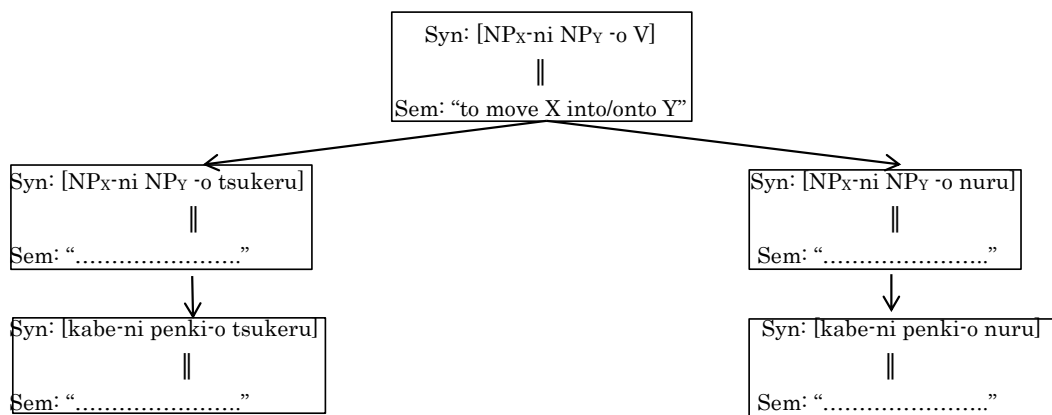
(Iwata (2008: 39)に準じて作成)

(7)場所目的語構文 (英語)



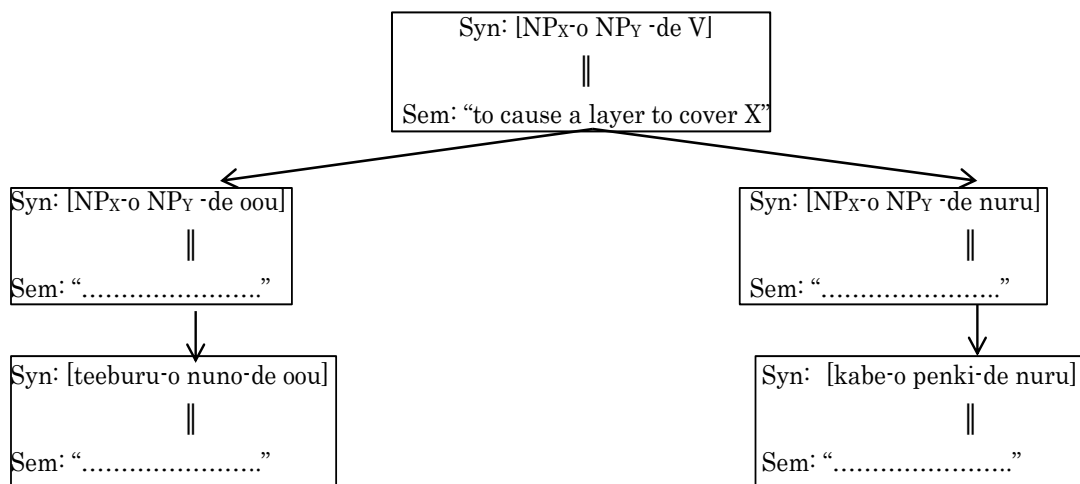
(Iwata (2008: 39)に準じて作成)

(8)移動物目的語構文 (日本語)



(Iwata (2008: 178)に準じて作成)

(9)場所目的語構文（日本語）



(Iwata (2008: 179)に準じて作成)

(10) a. ペンキを塗る

b. 壁を塗る

(11) 『明鏡国語辞典』

a. 物の表面に液体や液状・糊状のものをこするようにつける

<場所> <移動物>

(cf. 壁にペンキを塗る)

b. 壁土・漆喰などをなすりつけて壁や塀を築く

<移動物> <場所>

(cf. ペンキで壁を塗る)

(高見・久野 (2014:162-163))

3. 「塗る」の定義と用法

(12) 『広辞苑』

①物の面に粉末や液体などをなすりつける。「ペンキをー・る」「人の顔に泥をー・る」

②土・漆喰などをなすりつけて、壁・塀・壇などをきずく。「壁をー・る」

③自分の罪や責任を他人になすりつける。

(13) Type A: ～に---を 「壁にペンキを塗る」

Type B: ～を---で 「壁をペンキで塗る」

Type C: ～を 「壁を塗る」

Type D: ---を 「ペンキを塗る」

(14) 「塗る」の用法

	Type A	Type B	Type C	Type D
岩波国語辞典	1	0	1	1
学研国語大辞典	0	0	1	1
新潮 現代国語辞典	1	0	1	1
広辞苑	1	0	1	1
国語大辞典 言泉	1	0	0	1

日本語表現活用辞典	1	1	1	0
新明解国語辞典	1	1	1	1
精選版 日本国語大辞典	0	0	1	1
デジタル大辞泉	1	0	1	0
スーパー大辞林	1	0	1	0
日本語基本動詞用法辞典	1	1	1	0
日本国語大辞典 第1版	0	0	1	1
日本国語大辞典 第2版	0	0	1	1
小学館日本語新辞典	1	0	1	1
日本語大辞典	0	0	1	1
ハイブリッド新辞林	0	0	1	1
明鏡国語辞典	1	1	1	0
合計	11	4	16	12

(15)

場所に移動物を	場所を移動物で	場所を	移動物を	場所に	移動物で
3	0	11	44	5	1

『てにをは辞典』

Type B は、『明鏡国語辞典』などわずか4つの辞典に限定される。『てにをは辞典』を用いて、助詞と名詞の共起を調べた結果、Type B に該当する事例は1例も該当しなかった。このことを踏まえると、(16)に挙げる疑問が生じる。

(16) 「塗る」は、場所目的語構文である Type B を要求するのか。

4. データ収集

4.1. 青空文庫

「青空文庫」に収められている「塗る」を伴う全ての事例を収集し、(17)のグループに分類した。

(17) Type A: ～に---を 「壁にペンキを塗る」

Type B: ～を---で 「壁をペンキで塗る」

Type C: ～を 「壁を塗る」

Type D: ---を 「ペンキを塗る」

Type E: ～に 「壁に塗る」

Type F: ---で 「ペンキで塗る」

(18) a. そこには目の前に、夜光ペイントを塗った飛行機の胴体が鈍く光っていた。(海野十三『流線間諜』)

b. そして一めんに朱で塗られてあったと見え、... (堀辰雄『大和路・信濃路』)

(19)

Type A	Type B	Type C	Type D	Type E	Type F	合計
232 (41.8%)	46 (8.3%)	112 (20.2%)	128 (23.1%)	31 (5.5%)	5 (0.9%)	554

Type B は、Type E と Type F を除く他のタイプと比較して、事例が極めて少ない。壁塗り構文の Type A と Type B は、意味の違い以外にも何か特徴があるのではないかと予測できる。3 節でも見たように、Type B が明記されている辞典は、わずか 4 冊だった。Type A と Type B は両方とも「塗る」が要求している構文なのか検討する必要がある。

4.2. Type A と Type D

(20) 疑問点：Type D は、Type A から独立した構文なのか、それとも二格が省略された構文と捉えるべきなのか。

(21) Type D における二格相当の対象物

	二格対象物あり	二格対象物なし(推測可)	二格対象物なし(推測不可)	合計
Type D	76 (59.3%)	51 (39.8%)	1 (0.7%)	128

(22)二格対象物あり

そのような二種の花びらを揃える。それから一枚一枚、すこしずつ外して並べ、ゴム糊を塗る。それが一役。
(海野十三『柿色の紙風船』)

(23)二格対象物なし(推測可)

- a. 眞白に白粉を塗り、派出なきものをつけて、何がなしに小さい手をひらいて踊った。
(北原白秋『思ひ出 抒情小曲集』)
- b. 口紅を、そんなに赤く塗ったりして、げびてるじゃないか。
(太宰治『新ハムレット』)

Type D は、128 例のうち 76 例は前後で二格の省略内容と同一の対象物が確認できる。51 例は、前後に対象物が明示されていないが、(23)のように推測できる。このことから、「～に---を」が「塗る」が要求している構文であると考え。近くに場所が明記されている場合や、塗る場所を十分に推測できる場合は、二格の省略が可能となる。

4.3. Type B と Type C

(24) 疑問点：Type C は、Type B から独立した構文なのか、それともデ格が省略された構文と捉えるべきなのか。

(25) Type C におけるデ格相当の対象物

	デ格対象物あり	デ格対象物なし(推測可)	デ格対象物なし(推測不可)	合計
Type C	25 (22.3%)	4 (3.5%)	83 (74.7%)	112

(26)デ格対象物あり

ペンキはいくら油でのばしても、夏の時よりも、はるかに濃い。波田は濃くて堅くて延びの悪いペン罐を腰のバンドに縛りつけて、マストのテッペンから塗り始めた。向こう側を西沢が塗っていた。
(葉山嘉樹『海に生きる人々』)

(27)デ格対象物なし(推測不可)

果たして髪の毛のあいだに太い釘を打ち込んで、その跡を塗り消してあるのを発見した。
(岡本綺堂『中国怪奇小説集 13 輟耕録 (明)』)

Type C が「塗る」という動詞で要求された構文であり、何で塗ったのかを明示したいときのみ、Type B が

可能となると考える。

4.4. Type E と Type F

(28) Type E におけるヲ格相当の対象物

	ヲ格対象物あり	ヲ格対象物なし(推測可)	ヲ格対象物なし(推測不可)	合計
Type E	29 (93.5%)	1 (3.2%)	1 (3.2%)	31

(29)ヲ格対象物あり

犠牲の血によって物を祭り清めるという宗教的の意義しかなかったのであろうが、しかし特に鐘の割れ目に塗るということがあったとすると、(寺田寅彦『鐘に響る』)

5. 考察とまとめ

辞典とデータに基づいた本研究を振り返ると、Type A は[NP_X NP_Y-ni NP_Z-o nuru]が基底生成されるが、Type B は Type C の[NP_X NP_Y-o nuru]から派生した構文であると提案した。Iwata (2008)は、*He sprayed the wall with paint.*では、[NP_X spray NP_Y]という構造を仮定しており、日本語と英語を一貫して説明できる。

参考文献

Iwata, Seizi (2008) *Locative Alternation: A lexical constructional approach*. Amsterdam: John Benjamins Publishing Company.

高見健一・久野暲 (2014) 『日本語構文の意味と機能を探る』東京:くろしお出版.

データと辞典

青空文庫 [http:// www.aozora.gr.jp](http://www.aozora.gr.jp)

大辞泉編集部 (2015) 『デジタル大辞泉』東京:小学館.

姫野昌子(監修) (2004) 『日本語表現活用辞典』東京:研究社.

金田一春彦・池田弥三郎 (編) (1988) 『学研国語大辞典 第2版』東京:学研.

北原保雄(著、編) (2010) 『明鏡国語辞典 第2版』東京:大修館.

小泉保 他 (編) (1989) 『日本語基本動詞用法辞典』東京:大修館.

日本大辞典刊行会 (編) (1975) 『日本国語大辞典 第1版』東京:小学館.

日本国語大辞典 第2版編集委員会 (2001) 『日本国語大辞典 第2版』東京:小学館.

新村出 (著、編) (2008) 『広辞苑 第6版』東京:岩波書店.

西尾実・岩淵悦太郎・水谷静夫(編) (2009) 『岩波国語辞典 第7版』東京:岩波書店.

松井栄一 (編) (2005) 『小学館日本語新辞典』東京:小学館.

松村明・佐和隆光・養老孟司 (監修) (1998) 『ハイブリッド新辞林』東京:三省堂.

松村 明・三省堂編修所 (編) (2006) 『スーパー大辞林 3.0』東京:三省堂.

小内一 (編) (2010) 『てにをは辞典』東京:三省堂.

小学館国語辞典編集部 (2006) 『精選版 日本国語大辞典 第2版』東京:小学館.

尚学図書言語研究所(編) (1986) 『国語大辞典 言泉』東京:小学館.

梅棹忠夫・金田一春彦 他 (監修) (1989) 『日本語大辞典』東京:講談社.

山田俊雄・白藤礼花・築島裕・奥田勲 (2000) 『新潮 現代国語辞典 第2版』東京:新潮社.

山田忠雄 他 (編) (2011) 『新明解国語辞典 第7版』東京:三省堂.